

Precancer and cancer in extensive ulcerative colitis: findings among 401 patients over 22 years: *Lennard-Jones JE, et al* (Gut 31: 800-806, 1990)

外来検査の方法の確立は重要なことである。

その結果、10年以内に22例の大腸癌合併を認めた。このうち12例は内視鏡的大腸生検で高度異型のdisplasiaを認め大腸切除術が施行され、その切除標本から最終的に癌が確認された症例だった。累積癌発生率は15年で3%、20年で5%、25年で9%であった。前癌病変

以上から著者らの行った経過観察の方法は全大腸癌 UC 症例の大腸癌発生による死亡率を下げるのに有効な方法と考えられるが、今後経済効率も考えた最も適した経過観察法の確立が望まれる。

白井正人 抄)